

日本語とヘブル語

✦ 文 岩本耕太郎 text by Kotaro Iwamoto ✦

イスラエルの軍人で日本の研究のため1974年に来日したヨセフ・アイデルバーグという人がいます。

彼は日本を訪れるために日本語の勉強をはじめたときに、ヘブル語と日本語に発音と意味の同じ言葉が数多くあることに気がつき、日本人と失われた10支族の関係を本格的に研究するようになりしました。

アイデルバーグは『古事記』、『日本書紀』、『十七条憲法』や『大化の改新の詔』の内容と、聖書に書かれている物語やトーラー（律法）の教えとの共通点を詳細に研究し、古代ヘブライ人と日本人の関係について独自の見解を発表しました。さらに神道・日本語・日本の歴史についての研究の際には、京都の護王神社の見習い神官にまでなつて、文化や道徳観の共通点なども明らかにしています。

アイデルバーグによると日本語の「あなた」は九州では「あーたー」や「あんな」といわれ、ヘブル語でも「アター」や「アンタ」だそうです。

同様に日本語の「歩く」はヘブル語で「ハラク」で、「測る」に対しては「ハカル」、「減ぶ」に対して「ホレブ」、「取る」に対し「トル」。

ヘブル語の「コール」は寒さや冷た

さという意味で、日本語の「凍る」や「氷」を連想させます。

日本語で「侍う（さむらう）」は貴い人の側に仕えるとか護衛するという意味です。同様にヘブライ語で「シャマルウ」というと守るの意味になります。

日本語で「侍う」から「侍」という言葉に変化したようにヘブル語で守るの意味の「シャマルウ」に人の職業を意味する接尾語「アイ」をつけると「シャムライ」、すなわち「侍」になるそうである。

興味深いのはヘブル語の「キニヤン・トラ」です。聖書でエジプトをしたイスラエルの民は、シナイ山でトーラーを授かり、約束の地カナンへ旅立ちました。

ヘブル語の「キニヤン・トラ」は律法を授かるという意味で、律法を授かった年に約束の地カナンに向かったとされています。

一方、日本の神武天皇は東に青い山に囲まれた良い土地があつて、それは天の神から子孫が授かった地なので、そこへ行って都を作ろうとしました（神武東征）。いわば約束の地に向かったということですが、これが「キノエ・トラ」（甲寅）の年だったのでした。



profile

帝国クリニック院長

1959年生まれ。幼少期をボストンで過ごす。

山形大学医学部卒。米国イリノイ州立大学で分子生物学を研究、1993年より現職。

サーフィンとクラシックカーをこよなく愛し、4世代7人家族。

著書に『患者さまが増える』（H&I出版）、『エグゼクティブが実践するたった一つの健康法』（中経出版）